

第1回 安田町庁舎建設検討委員会 会議録

日時 平成28年11月8日(火)午後7時00分から
場所 安田町文化センター 2階講座室
議題 1. 委嘱状交付
2. 出席者自己紹介
3. 委員長、副委員長の選任について
4. 安田町庁舎の現状について
5. 今後の会議の進め方について
6. その他

【配布資料】

- ・ 委員名簿、配席図
- ・ 安田町庁舎建設検討委員会設置要綱
- ・ 庁舎耐震診断結果
- ・ 津波浸水予測図
- ・ 役場周辺図

出席委員：赤池慎吾、佐藤昭二、清岡 哲、横田信次、武内住恵夫、有岡智佐、
南 一寛、小松寛之、山本 真、橋本雅史、小松憲次、太田賢三、
清岡ゆう子（13人）

欠席委員：伊吹衢章

出席アドバイザー：甲斐芳郎、原 忠、中岡誠二、西本準一、小原 忠

役場出席者：黒岩町長、南副町長、西岡総務課長、中川総務課長補佐 外

◎ 議題の進行

町長から各委員に委嘱状を交付、出席者の自己紹介後、委員長に赤池慎吾氏、副委員長に佐藤昭二氏を選任した。

総務課長から資料に基づき現在の庁舎の現状について説明

⇒ 耐震診断結果は0.16、昭和46年竣工で建築後45年が経過。

延床面積 1,161.4 m² 旧総務省基準より 400 m²狭く、電算化による機器の配置などで手狭な状況となっている。

また、会議室が1つしかなく、時間が重複した場合、文化センターやふれあいセンターを利用している。

高齢化等で2階に用事がある住民の方が上がっていけない場合は、職員が1階に下りてきて対応している。

県の発表によれば、現庁舎位置は津波浸水区域外とされている。

◎ 委員、アドバイザーの意見

甲斐アドバイザー

- 耐震診断結果 0.16 は相当危険な数値で、早急に耐震改修、建て替えの必要がある。
- 耐震改修は2階建て、小規模で可能だが、庁舎の機能を守る耐震改修は存在せず、建て替えの場合はコストはかかるが最新の技術で利便性の向上が得られる。
- どちらを選択するかで重要なことは、町民にどのようなサービスを提供したいのかを明確にすること。

原アドバイザー

- 安田町の場合は現在位置に遊休地があり、これを活用することが非常に望ましい。代替施設の必要がなく、スピーディーにできる。
- 震災は待ったなしの状態。この委員会も5回くらいでまとめていきたい。
- 耐震診断結果はY方向（断層方向）に弱く、リスクが高い。
- 耐震補強は可能だが極めて難しく、倒壊を免れる機能しかない。
- 発災後の復興期に庁舎が機能していない事例がある。
- 計画は町の立場としてビジョンを明確にすること。

中岡アドバイザー

- 県内34市町村のうち11市町村は庁舎に耐震性がない。
（うち建替中3、検討中6 未定2）
- 庁舎の建て替えには基本的に補助金がない。起債制度はあるが安田町の場合は有利な起債が使えない。
- 南海地震を踏まえ、非常用電源などはしっかり確保したうえで、財政的な面などもらみながら検討を。

西本アドバイザー

- JAや郵便局を含めた総合庁舎とする点については、法律上問題はない。
- 営業手段が違う施設が入るということで、セキュリティ面など、設計で配慮すべきことは出てくる。
- 庁舎建て替えの補助については、県が防災拠点施設に指定した建物については、条件や期限付きで、十分なものではないが補助制度がある。
- 規模の大きな公共建築については、近年、コストが高騰し、今までの感覚の工事費では、入札しても落ちないような状況で、県もいろいろと苦労している。
- 東京オリンピックを控えて需要が高まっており、全国的に技術者が不足している。特に高知県内は高齢化の問題もあり、コスト管理していくうえのリスクとなっている。

小原アドバイザー

- CLTに関する実例等の説明。
- CLTを利用した建築物の国庫補助制度の説明。
- 木材を使うことのメリット（森林整備による公益的機能、林業振興など、木造校舎の生徒への生理学面での効果）、デメリット（腐りやすい、火に弱い）

清岡 哲委員

- 今までの話だと、既に庁舎の建て替えと位置が決まっているようにも聞こえるが。事務局からたたき台を示してそれを議論するのが良いのではないか。

赤池委員長

- アドバイザー、委員からの意見を基に、役場内の部会で町としてのビジョン（現庁舎をどうすることが最適か、建て替えなら建設場所、規模を検討したうえで、次回以降、本委員会に提案したい。

今後の会議の進め方についてのアドバイザーからの意見

原アドバイザー

- 庁舎建設は、とかく利益追求とかに走りがちだが、そうではない。
- 庁舎の建設は命を決めることなので重要なことは何か、今決めなければいけないことは何かを明確にすることが大切。
- 会議が発散して何も決められないということにならないように事務局の方で一定の方針を決めて一回一回審議していくのが一番早いと思う。

甲斐アドバイザー

- 庁舎をつくるのは災害やまちづくりについて考える良いチャンス。
- 今ならそうした意見を出すことができるので、忌憚のない意見を出していくことが大切。

原アドバイザー

- 単独で庁舎のことを考えるのではなく、防災とまちづくりをセットで考えないと駄目。
- 年に3、4回しか行かない庁舎については、住民は無責任になりがちだが、防災機能だけではない特徴があるのが庁舎なので、その辺りを議論すれば、課題はクリアになると思う。

委員長による会議総括後、終了